

# 嬉 望

第 5 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

タイトルの嬉望は、兵教大メインキャンパスが嬉野台地区にあることと希望をかけた造語です。

## ●学長インタビュー①

6月8日(水)に、兵庫教育大学の 加治佐 哲也 学長に今後の教育界のことや教職大学院、学校経営コースのこと等についてお聞きしました。今号と次号の2回に分けてインタビュー内容を掲載します。

### 1 教職大学院とこれまでの教育系大学院の違いは何ですか？

教職大学院は専門職大学院の一つです。法学分野なら弁護士・裁判官など、会計分野なら公認会計士などの養成機関です。教員もそれらの職種と同様に高度専門職として位置づけ、養成する必要があるとされています。従来型大学院では旧帝大や広島大、筑波大等に代表される研究者の養成が主で、その他の大学院でも研究者養成と現職養成が混在しています。教職大学院はそれらに対し、はっきりと**高度専門職養成を旨とし、特化している**ところが大きな特徴です。

だから、実践的な演習や実習が多くあります。理論を学び、その上で事例を深く理解し、実践に活かすという仕組みがあるのです。理論に裏打ちされた実践をできる様になります。「もしドラ」では、ドラッカーの理論を高校野球という実践で活かしていましたね。現実には様々な理論の中から最もあてはまるものを選びながら実践に活かすわけですが、このようなことが**理論と実践の融合**です。学ぶ段階においても理論と実践の融合があるのが教職大学院のもう一つの特徴なのです。



加治佐学長(中央)と院生

### 2 全国に教職大学院はいくつありますか。その中において兵庫教育大学教職大学院の特色は何ですか？

100人という**全国最大規模**であり、教職大学院が養成しようとするものを**ほぼすべてカバー**しています。授業実践や心の教育などの**ミドルリーダー養成**、即戦力の**新人養成**、そして現在重要度が増している**トップリーダー養成**を行っており、さらにそれぞれが互いに良い影響を与えあって学んでいるところです。また、小規模の大学院には、それを活かした取組をしている大学もありますが、規模の大きな本学は、標準的で現実的な形、すなわち**実習もできるし落ち着いた大学でも学べる**といった教職大学院のスタンダードモデルといえるでしょう。またある県とは、人事と人材育成が一体化した取組を行っています。スタンダードでありながら、このように先進的に様々な取組をしているところも特色でしょう。(6号へ続く)

## ●日本教育経営学会に参加しました

日本大学で行われた日本教育経営学会に6月4日(土)と5日(日)の2日間、私たち大学院生の数名が参加してきました。

47件の研究発表に加えて、公開シンポジウム、実践推進フォーラム、課題研究、緊急企画と盛りだくさんの内容で、もちろん兵庫教育大学の先生の発表もありました。

学校のアカウントビリティと保護者の教育要求の関係性に関する考察
スクールリーダー・プロジェクト(SLP)の実践的研究
「学習する組織」を創造する校長のリーダーシップに関する研究
家庭のソーシャル・キャピタルと学業成績の影響関係:学校の組織活動を媒介要因とするモデルの検討
「能力開発型」教職員人事評価制度の全国的傾向と諸特徴
学校経営における「相談」～校長のネットワークと学校経営活動～
教師の精神疾患による「病休」の現状と課題
校長職の専門性に関する法制史研究～校長に求められる知識・技能とその背景

筆者が参加した研究発表



質問する本コース院生

日本教育経営学会が2009年度に公表した**校長の専門職基準**。その後も研究・議論がなされ、今年度も「課題研究」で発表等がありました。

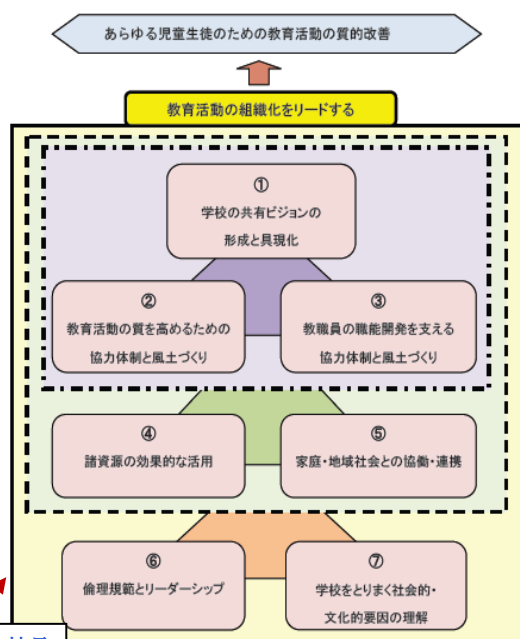


図 校長に求められる力量の構造

## ●兵庫教育大学 神戸サテライトについて

兵庫教育大学では、仕事に従事しながら、夜間でも履修できるように昼夜開講制コースがあり、夜間の授業開講場所として「神戸サテライト」があります。交通至便の場所にあり、昼間仕事をしながら、夜間学習しやすい環境にあります。

夜間クラスの学生は、加東キャンパスでの昼間の講義や集中講義も受講できます。授業は18時30分～21時40分の間に行われています。私たち学校経営コースの仲間にも、教員や指導主事などの仕事をもちながら、神戸サテライトで学ぶ院生がいます。詳しくは、大学ホームページでご確認ください。(http://www.hyogo-u.ac.jp/)



## ●「学校改善プラン・教育行政改善プラン」を充実に向けた個別研究

本学の学校経営コースでは、「全体で行う課題研究」、「少人数によるグループ指導」に加えて、学生の「個別研究」を進めています。修了時にまとめる「学校改善プラン・教育行政改善プラン」を充実させるための研究で、大学当局やベネッセからの支援をいただいています。年度当初に自主的に応募し、採用された研究は、担当教員の個別指導があります。また、その成果は論文集にまとめ、年度末には発表会があります。表は本年度採用された学校経営コースの個人研究テーマです。全体で40本採用されたうち、10本をわがコースが占めました。昨年度は9本でした。また、下の写真は昨年の発表会の様子です。



研究テーマ	種別
ベテラン・中堅教員不在の学校における若手教員の人材育成のあり方研究 ～教職員評価制度の「目標管理」に注目した育成手法の検討～	小学校
初任者による学級経営技術の獲得に向けた指導・支援の研究 ～学級開きから第1回授業参観までの具体的な活動を探る～	小学校
教師の「授業力向上」を実現する学校職場の研究 ～教職員の協働性や同僚性向上による授業力アップのアプローチ～	中学校
「高等学校困難校」再生プロセスの研究 ～校長のリーダーシップとミドルリーダーの活躍のあり方～	高校
総合学科高等学校における「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の研究 ～高等学校における理想的なキャリア教育プログラムの構築を目指して～	高校
高校入試制度の改革を学校改善の推進力に変える経営戦略のあり方	高校
専門高校における系統的な進学システムの開発 ～工業高校における進学対応型学校組織マネジメントの研究～	高校
総合学科高校におけるPISA型学力と学校経営の関係性に関する研究 ～総合学科高校の今後の学校経営戦略に向けて～	高校
小中学校においてキャリア教育の推進を支援するための教育行政の在り方 ～社会人・職業人として業務遂行に必要な能力の育成をめざして～	教委
学校の自主性・自律性の確立を支援する指導主事の役割についての研究 ～小・中規模教育行政における指導主事に求められる能力とその育成について～	教委

## ●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ④

### ～学校における特別支援への対応と方法A～（選択共通基礎科目）

今回の授業紹介は、後期に開講されている「学校における特別支援教育への対応と方法A」です。この科目は、選択共通基礎科目で教職大学院の4つのコースの院生が選択して受講します。大学院修了要件の50単位に含まれていないプラスアルファの科目なので、これを選択した学生は修了に際して50単位以上修得することになります。

特別支援教育の重要性は近年増すばかりです。この授業では、ADHDやLDなどの児童生徒の行動特性等を理論的に学んだり、地域の特別支援に関する施設やサービスを演習によって調べたり、そしてどのように現場で活用するかを考えたりと、これからの管理職・教育行政職にとって必要なことばかりでした。

図は、ある院生がこの授業のレポートを作成するうえで考えたものです。仮想の県立普通科高等学校に在籍する生徒に対する特別支援の校内体制について考えた構造図です。

